歌うよろこびを実感

～「カトレア」創立10周年記念コンサート～

貴生川公民館で活動される歌声サークル「カトレア」、合唱を通して歌う喜びを感受し、親睦を図ることを目的に活動されています。

7月5日、「カトレア」創立10周年を記念し、コンサートが貴生川公民館で行われました。

この日は、団員に加え、歴代のメンバーやサークル仲間「心の愛唱歌を歌う会」の皆さんが集まり創立10周年を祝いました。コンサートのフィナーレでは会場の皆さん全員で合唱、公民館が歌声でつつまれたひとときでした。

▶10周年のよろこびを歌声に

安全走行でV６達成・大原小学校

～交通安全子ども自転車大会～

大津市内で７月５日開催された交通安全子ども自転車滋賀県大会（滋賀県交通安全協会など主催）に、大原小学校が甲賀湖南地区代表として出場し学科と実技のテストに挑みました。選手たちは、見事な自転車走行を披露し、県大会６連覇を達成しました。

▲見事なテクニックで安全走行を披露

選手の皆さんは、７月９日に國松教育長を訪れ優勝の報告。教育長が「優勝は大原小学校の名誉でもあり、甲賀市の名誉でもあります。全国大会でも頑張ってください。」とお祝いの言葉を送りました。

キャプテンの鈴木達喜（すずきたつき）くんは、「チームワークで頑張りたい。団体の部で優勝をめざします。」と全国大会への意気込みを力強く述べました。

同校は８月８日に東京都内で開催される全国大会に滋賀県代表として出場されます。

▶大原小学校の選手の皆さん

大規模災害を未然に防ぐ

～甲賀広域消防連合夏期訓練～

▲工場の消火訓練

７月13日、ひのきが丘工業団地で、甲賀広域消防連合夏期訓練が行われました。

工業団地にはガスや石油などの燃料をはじめ、可燃性物質が多くあり、災害が発生すると、即大規模な災害につながる危険があります。

この日は、関係機関が集まり、コニシ株式会社滋賀工場の協力により、工場内で火災が発生したという想定で行われ、大規模災害を未然に防ぐための訓練が熱心に行われました。

▲訓練の状況を確認する中嶋市長

ここでは地域の話題を紹介しています。
皆さんからの情報提供をお待ちしています。 ●秘書広報課 ☎65-0675／FAX63-4619

であいこうか

DEAI 17 KOKA

地域で活躍されている元気な方を紹介するコーナーです。

川森良己（かわもりよしみ）さん（甲南町下馬杉）

趣向を凝らしたリサイクルで古き良きものを再生

川森さんの自宅にある装飾品の数々。趣があり、あたたかい感じがします。これらはすべて古く使われなくなった建具などを利用し、ご自身の手作りで制作されたものです。

「昔のものは、作りが丁寧で丈夫な良いものが多くあります。それを使わなくなったからといって、そのまま捨ててしまうのはあまりにももったいないと思います。何らかの形で残すことができればとの思いで始めました。」と話す川森さん。単なる材料のリサイクルでなく、アイデアを凝らしてまったく違うものにします。元々の製品の良いところを残しつつ、いろんなものに生まれ変わらせる。それを考えることが楽しみだそうで、古い障子や戸が川森さんの手によって衝立やテーブルなどに見事に生まれ変わります。

現在、地域のものづくりを趣味に持つ仲間で結成された「下馬杉ものつくり有志の会」の会長としても展示会の開催など活発に活動されており、また今年の夏休みには、制作されているもののひとつである、ひょうたんの絵付けを甲南第三小学校の児童に教えに行く予定だそうです。

「いろんなところで、ものが捨てられたり、壊されたりするのを見ると心が痛みます。新しいものは便利だけど、古いものには古いものにしかない良さがあるので、その良さを伝えていきたい。」と話す川森さん。これからもいろんな形で古き良きものを再生し続けられることでしょう。

▶川森さんが制作された作品の数々

太鼓づくりから学ぶ命・人権

～貴生川小学校6年～

寄稿◎17・18年度まちかど特派員 杉山祐子（すぎやまゆうこ）

▲完成した太鼓を手渡す杉本さん。一人ひとりにむけるまなざしがやさしい

「このにおい、君ならどう表現しますか？」姫路市の太鼓職人・杉本大士（すぎもとたいし）さんが差し出したものを前に、「プールのにおい」「3日間放っておいた靴下のにおい」と反応が返ってきました。

彼らが表現したものは〝牛の命〟―太鼓に使う牛の皮のにおいです。今年も6年生は「いのち・人権について考えよう」という学習の中で、7月4日に太鼓づくりをしました。牛の命から様々なものが生み出されて私たちが豊かに暮らせるということ。また、それに関連して伝統文化や人権についても考えを深めました。

「牛の大切な命をいただくという感謝の気持ちをもって作りましょう」と杉本さんの説明を受け、早速作業にとりかかりました。木目シールを貼った塩ビパイプの胴の上下に皮を置き、紐で締めていきます。みんな真剣そのもの。でも、いざ打ってみると「ボソボソ」「ポコポコ」という音ばかりです。そこで杉本さんが一人ずつ点検して紐を締め直すと、驚くほどいい音に。その魔法のような指さばきにみんな思わず歓声をあげていました。

子どもたち一人ひとりが指や手のひらを真っ赤にして作り上げた『世界でたったひとつの太鼓』。この太鼓はこれからの学習活動で活躍する予定だそうです。みんなの音が重なった時、どんなハーモニーが生まれるか楽しみですね。子どもたちはこの太鼓の音を聞く度に今日の感動的な体験を思い出すことでしょう。

▶保護者も参加して